

JA全農ちば 営農情報集 (3月号)

今月の情報

1. 水稻作のポイント～種粃の播種と育苗管理について～
3. 園芸野菜 病虫害防除情報
4. 果樹(ナシ) 病虫害防除情報
4. 安全な農作物生産の取り組みについて☆改善をつづけるために☆

3月の気象について（気象庁 2/27 発表 長期予報（1 か月）から）

1. 引き続き気温が高い傾向が続きます。
特に3月2週間目までその傾向が強く、
予測詳細では平均気温で+2℃ほどと
なっています。
2. 気温が高い状況に備え、水稻・園芸とも
に育苗施設での換気・温度管理には注意
しましょう。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

【気 温】 関東甲信地方



【降 水 量】 関東甲信地方



【日照時間】 関東甲信地方



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

（長期予報（1 か月）は毎週木曜日に発表されます。週予報とともに確認し、今後の栽培管理の計画を立てましょう）

注意とお願い

農薬登録は掲載時点の内容です。農薬を使用する際には、最新の登録内容をご確認ください。

園芸施設 被害対策

全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています
アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照（JA 全農ちば営農資材コーナーからもリンク）
HP : <https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx> または「アピネス」で検索

営農技術情報集のカラー版や、その他の営農情報は全農ちばHP内営農情報コーナーにて公開中！

全農ちばHP< <http://www.cb.zennoh.or.jp/index2.html> >

水稻作のポイント

種籾の播種と育苗管理について

JA全農ちば
営農支援部

種子の配布も始まり水稻作付けがいよいよスタートします。

種子に関しては、低温貯蔵種子を利用する際は、休眠が深くなっている場合がありますので、浸種作業は注意して行いましょう。

近年、気象が極端化しています。「突発的な高温・低温」に注意をしましょう。

また、播種や植え付け時期の早限を越えると、冷害の危険性（特に植付の早い早生品種や低温に弱い品種）がありますので、適期播種・適期植え付けをしっかりと守り、良質な苗の移植を心がけましょう。

1. 稚苗移植の播種・植え付け時期及び出穂期の早限

各品種の耐冷性を考慮した播種・植付の早限は下記のとおりとなります。

品 種 名	地 域					
	安房・東京湾岸南部			その他の全域		
	播 種	植え付け	出穂期	播 種	植え付け	出穂期
ふさおとめ ふさこがね コシヒカリ ひとめぼれ ふさのもち 総の舞	3月20日	4月15日	7月15日	3月25日	4月20日	7月20日
ヒメノモチ ゆめかなえ	4月 5日	4月25日		4月10日	5月 1日	

※稲作標準技術体系（千葉県・千葉県農林水産技術会議）より抜粋

2. 種子消毒について

種子伝染性の病害である「ばか苗病」・「いもち病」・「細菌性苗立枯（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病）」などの発生を防ぐために行います。

種子伝染性病害の多くは、種籾の周りや内部に侵入した病原菌が、育苗箱中に発生するため、事前の種子消毒による防除が重要です。

種子消毒剤及び使用方法

- ・ヘルシードTフロアブル 200倍24時間浸漬
- ・テクリードCフロアブル 200倍24時間浸漬

※薬剤浸漬の水温は10～15℃で実施しましょう。

極端な高温・低温は薬害、効果不足、発芽不良などが起こりやすくなります。

種子消毒を中心に、正しい処理方法の動画をJA全農ちばHPで公開しております
【<https://www.cb.zennoh.or.jp/>へアクセス⇒ 右図のアイコンをクリック】

種もみの種子消毒
紹介VTR

農作業安全 トラクター巻き込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

3. 浸種について

浸種は発芽を揃えるため、積算水温 100℃を目安に(水温 10℃で 10 日間)水に漬け、種子を十分に吸水させましょう。また、配布された種子で保証票に「低温貯蔵種子」の表記がある場合は浸種を長めにとりましょう(例：水温 10℃、12 日間、積算水温 120℃)。

種子消毒の効果を高めるために、浸種後 3 日目までは水の交換はせず、4 日目以降に水を交換しましょう。

種子消毒・浸種・催芽スケジュール例

一般種籾の場合	低温貯蔵種籾の場合	エコホープDJ使用の場合
種籾消毒 (24時間浸漬) ↓ 陰干し (1日間) ↓ ※浸 種 (3日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (3日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (2日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (2日間) ↓ 催芽・は種	種籾消毒 (24時間浸漬) ↓ 陰干し (1日間) ↓ ※浸 種 (3日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (3日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (3日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (2日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (2日間) ↓ 催芽・は種	種籾消毒 (24時間浸漬) ↓ 必要なし ↓ ※浸 種 (3日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (3日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (2日間) ↓ 水交換 ↓ 浸 種 (2日間) ↓ 催芽・は種

※浸種 4 日目以降は、毎日水交換を行っても良い。(浸種水温の上昇を防ぐ・空気供給のため)

※微生物資材(エコホープDJなど)を使用する場合、種子消毒後に風乾(陰干し)しない。

4. 培土消毒・播種

培土消毒は育苗中に発生する苗立枯病(カビ)や、細菌病を予防するために行います。

使用薬剤及び使用方法(フタバロンA粉剤を利用する場合)

- (1) 播種前の床土への灌水はタップリと行いましょう。
- (2) 薬剤と育苗用土の混和は、使用量をきちんと守り、播種 7 日前～播種直前に実施しましょう。(培土 20 リットルに対して「フタバロンA粉剤」100 g を均一に混和)
- (3) 薬剤は「**覆土**」のみに行いましょう。
- (4) 播種直後の覆土への灌水は行いません。

また、床土の灌水と、播種後の覆土が少ないと「根上がり」しやすくなるので注意しましょう。

育苗箱に発生する苗立枯病の種類と病徴及び発生条件

病原菌	病徴	発生条件	薬剤名
リゾープス菌	箱の表面全体に白～灰色のカビが広がる。	出芽時の高温(35℃以上)・多湿	ナエファインフロアブル ダコレート水和剤 ダコニール 1000
フザリウム菌	根の周りに白～ピンク色のカビが生じる。	播種後の低温及び乾燥と過湿の繰り返し	ナエファインフロアブル ダコレート水和剤 タチガレエースM液剤
トリコデルマ菌	地際部に白カビが生じ、その後青緑色カビに変わる。	出芽時の高温(30℃前後)	ダコレート水和剤
ピシウム菌	坪枯症状をおこす。萎凋し下葉から褐変枯死する。	緑化期以降の低温	ナエファインフロアブル タチガレエースM液剤

※育苗箱で発生したカビに対応できる薬剤を選択、散布しましょう。

※農薬を使用する際は登録内容を再確認しましょう。



リゾープス菌（白色）



フザリウム菌（ピンク色）



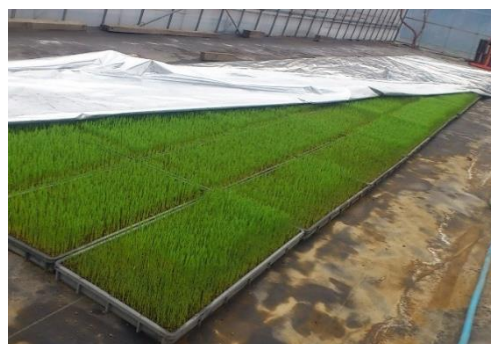
トリコデルマ菌（緑色）

5. 育苗時の温度管理

水稻の平置き育苗は播種後～出芽まで昼間 20～35℃、夜間 10～20℃の温度の確保が必要です。しかし、3月下旬の播種は育苗時に低温になる期間が多く、出芽の遅れや病気が発生する可能性が高くなります。健苗育成のために、被覆資材で保温し温度管理をしっかりと行いましょう。

「太陽シート」は、被覆内の日中の高温防止と夜間の保温を同時に行い発芽適温を保つ資材で、緑化期までのハウスの換気作業を軽減することができます。ただし、低温期の保温効果が低いため、ハウス内が 10℃以下になることが予想される場合は、太陽シートの上に手持ちの被覆資材で2重掛けを実施しましょう。

また、播種後、太陽シートを被覆する際に、ハウス内および地温を高めておく事で、保温効果を発揮させることができます。



太陽シート利用の様子

作成：古内

農作業安全 トラクター巻込み事故注意！食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1 はじめに

春夏作物の準備時期となりました。いずれの作物でも苗づくりが重要です。3月は気温が高い予報のため、適切な温度・湿度管理に注意しましょう。

2 各作物苗床〔苗立枯病〕

主にピシウム菌やリゾクトニア菌が原因となり、育苗初期に発生し茎の地際部付近が腐敗します。子葉から上の葉が正常なまま倒れてしまうことが多いです。菌によって症状が異なりますので、対応した薬剤を選択しましょう。また、高温多湿条件で発生しやすいので、過度な灌水や換気の遅れ、密植管理には注意しましょう。

ピシウム菌被害の特徴：地際付近が褐色に変色し、軟らかく軟腐状になる。

リゾクトニア菌被害の特徴：褐色に変色し、くびれて細くなる。



(左) ピシウム菌被害 (右) リゾクトニア菌被害

○苗立枯病 防除薬剤例（使用時は各作物の登録内容をご確認ください）

対象病害	FRAC	薬剤名	備考
苗立枯病	M4	オーソサイド水和剤80	散布または 灌注処理
苗立枯病（リゾクトニア菌）	M5	ダコニール1000	
	4	リゾレックス水和剤	

3 スイカ〔うどんこ病〕

うどんこ病は苗床から持ち込んでしまうこともあります。株元、特にうどんこ病は子葉から発生するので、発生初期を逃さないように注意しましょう。明らかな被害が出ている苗は使用を避けるか、定植後に下表の治療剤による防除を行いましょう。

定植後はベルコートフロアブルでの予防を基幹として、ミツバチ導入後などしばらく防除が行えない時期は必ず事前に防除を行いましょう。



うどんこ病被害

○スイカ うどんこ病 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
うどんこ病	M7	ベルコートフロアブル	1000	収穫前日	4回以内	予防
	3	トリフミン水和剤	3000～5000	収穫前日	5回以内	予防・治療
	3+U6	パンチョ TF 顆粒水和剤	2000	収穫前日	2回以内	予防・治療

※パンチョTF顆粒水和剤はトリフミンと同成分(トリフミゾール:3回以内)を含むので使用回数に注意

農作業安全 トラクター巻き込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

4 トマト・ナス すすかび病

感染から発病まで14日以上かかります。下葉から発生するので、現在発病している葉の数段上まで感染している恐れがあります。予防剤は感染前でないと効果を発揮できないので、すでに発生が見られる場合は治療剤を加えた防除ローテーションを行いましょう。気温20～25℃、湿度90%以上で最も発生しやすくなるので、特に湿度対策（換気）には注意しましょう。



○トマト すすかび病(葉かび病登録含む) 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
すすかび病	M7	ベルコートフロアブル	2000～4000	収穫前日	3回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000	収穫前日	3回以内	予防
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000～3000	収穫前日	3回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル※1	2000	収穫前日	4回以内	予防・治療
	3	トリフミン水和剤	3000	収穫前日	5回以内	予防・治療

○ナス すすかび病(葉かび病登録含む) 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
すすかび病	M7	ベルコートフロアブル	2000	収穫前日	3回以内	予防
	7	アフェットフロアブル	2000	収穫前日	3回以内	予防
	7+11	シグナムWDG※1、2	1500～2000	収穫前日	3回以内	予防・治療
	11	アミスター20フロアブル※1	2000	収穫前日	4回以内	予防・治療
	3	トリフミン水和剤	3000	収穫前日	5回以内	予防・治療

※1 アミスター、シグナムは薬害発生回避のためニーズ等の展着剤の混用は避け、基本的には単用が望ましい。

※2 シグナムWDGはカンタスドライフロアブルの成分が含まれるので使用回数に注意。

5 ニンジン（トンネル栽培）〔ヒョウタンゾウムシ〕

ヒョウタンゾウムシの多くは圃場外から侵入し、畝内へ入ってきます。マルチの隙間や土の塊の下に潜っていることが多いです。トンネル除去前後の発生状況を確認しつつ、成虫防除としてコテツフロアブルの散布を行いましょう。散布はニンジン株元や畝全体によくかかるよう行いましょう。



○ニンジン ヒョウタンゾウムシ 防除薬剤

対象 病虫害	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ヒョウタン	13	コテツフロアブル	2000	収穫前日	2回以内	成虫防除剤
ゾウムシ	22B	アクセルフロアブル	1000	収穫前日	3回以内	成虫防除剤

果樹(ナシ) 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1 はじめに

桜の開花が平年より大幅に早くなる予想であり、さらに気象予報に関しても3月全体を通して平年より気温の高い日が続く予想であるため、ナシの開花時期も早めになると予想されます。(桜開花予想：東京3月15日、銚子3月21日)。花芽の様子や気象状況を確認し、作業が遅れないよう注意してください。

2 黒星病



防除適期はりん片脱落期直前(3月下旬)から交配終了後(4月中下旬)までです。
適期を逃さず防除して下さい。

(1) 耕種的防除

- ① 芽基部に発病が見られた場合は基部から切除してください。
- ② 黒星病が発生した落葉からは黒星病の胞子が飛散し、伝染源になります。園内に残っている落葉等は土中に埋めるか、園外に持ち出してください。

(2) 薬剤防除(黒星病対策)

① 催芽期～発芽期 花芽の防除 3月中旬～下旬

- ・オーソサイド水和剤 80 による臨機防除 1000倍 (収穫3日前まで/9回以内)

★★★ 催芽期～発芽期の防除時期の目安 ★★★

長果枝先端部のりん片がゆるんできたころが目安
見えている中の部分に農薬をつけることが狙い



左 防除時期目安 ・ 右 ここまで開くとオーソサイド散布には遅い

- この防除は秋防除の延長線にあり、芽基部病斑の防除が目的です。防除可能な時期が短いので、特に黒星病多発園や昨年の秋防除が不十分だった園で散布を行うか検討してください。芽基部発病芽を減らし、その後3月下旬の防除へつなげましょう。
- オーソサイド水和剤 80 使用時の注意点
 - ・ 前剤にオイル剤が使用されていた場合、10日ほど間隔を空ける必要があります。(薬液が付着しにくい)
 - ・ 展開葉部分にオーソサイドがかかった場合、葉先薬害(黒斑点)が生じる可能性があるため、写真右の時期までに散布を行いましょう。

農作業安全 トラクター巻き込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

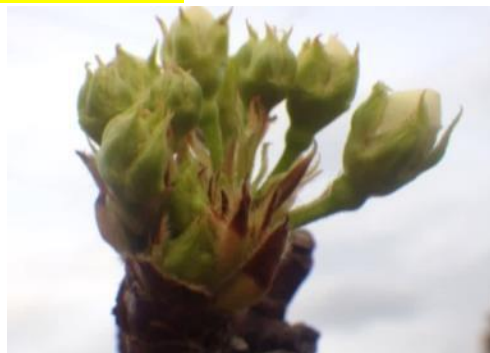
※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

②りん片脱落期（3月下旬頃～）

- ・デランフロアブル1000倍（収穫60日前まで／4回以内） または
トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内） または
ベルコートフロアブル1500倍（収穫14日前まで／5回以内）

★★★ りん片脱落期の目安 ★★★

早い品種の花
芽がこれくら
い開いてきた
ら防除



③りん片脱落終了後～開花直前（4月上旬～4月中旬）

- ・マネージDF6000倍（収穫21日前まで／3回以内） または
アンビルフロアブル1000倍（収穫7日前まで／3回以内）
- ＋ トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内）
- ・混植園の散布目安は、開花の早い豊水や新高のりん片脱落終了後～開花直前です。

④【臨機防除】開花中 長雨や気温の影響等で開花が長引く場合

- ＋ トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内）
（散布当日は受粉作業を行わない）

④交配終了後（4月下旬）

- ・スコア顆粒水和剤4000倍（収穫14日前まで／3回以内）
- ＋ トレノックスフロアブル500倍（収穫30日前まで／5回以内）

3 アブラムシ類



アブラムシ被害



ナシアブラムシ

脱皮した抜け殻

3月下旬以降アブラムシ類が飛来し、展葉期頃から葉がちぢれ、内側に巻くような被害が現れます。

薬剤防除

①りん片脱落終了後～開花直前（4月上旬～4月中旬）

ウララDF 2000倍（収穫14日前まで／2回以内）

②交配終了後（4月下旬）

バリアード顆粒水和剤 4000倍（収穫前日まで／3回以内）
（シンクイムシを同時防除する場合は2000倍で散布して下さい）

4 ニセナシサビダニ

3月中旬以降に発生し、新葉・新梢に寄生します。葉のモザイク症状の原因になり、開花期後の防除が必要になります。新葉へ移動していくので新梢が伸びるにつれて園の上部へ移ってしまい、薬剤がかかりにくくなること考えられます。

ハチハチフロアブルはミツバチへの影響があるので、散布時は圃場や周囲のミツバチ使用状況に注意しましょう。また、ハチハチ・コテツ共にチャノキイロアザミウマ防除も兼ねます。

被害の大きい園ではモベントフロアブルをハチハチの代わりに選択し、新梢展葉を確認後に散布しましょう。浸透移行性を持つ薬剤のため、成分が葉へ浸透し、新たな展葉部分に移行することを狙います。またモベントフロアブルはアブラムシ類防除も兼ねます。

薬剤防除

①4月下旬（交配終了後・モベントは新梢展葉の確認後）

ハチハチフロアブル 2000倍（収穫30日前まで／1回）
または モベントフロアブル 2000倍（収穫14日前まで／3回）

②5月中旬

コテツフロアブル 2000倍（収穫前日まで／3回以内）



5 ナシマルカイガラムシ、他カイガラムシ類

主に枝に寄生し吸汁加害をします。発生密度が高いと果実表面に寄生するため、商品価値を低下させます。春先から越冬卵が孵化し、年内に2回ほど産卵するので、発生密度を抑えるためにも春先のマシン油散布が重要になります。またマシン油散布は、カイガラムシ類の他にもハダニ類やニセナシサビダニの防除も兼ねます。マシン油は虫本体に付着しないと効果を示さないため、発生している樹には散布ムラがないように枝の上面にも散布しましょう。



ナシマルカイガラムシ多発枝 吸汁被害



ナシマルカイガラムシによる実の被害

薬剤防除

3月上旬

ハーベストオイル（他マシン油） 50～200倍（発芽前／ー）

作成：名雪

安全な農作物生産の取り組みについて

☆改善をつづけるために☆

J A全農ちば
営農支援部

1. 安全な農産物生産の取り組みについて

本営農情報集では、1年にわたり『安全な農産物生産の取り組みについて』情報を発信させていただきました。消費者の食の安全安心への関心は依然として高く、生産現場にはリスク管理と改善活動が求められています。食の安全安心や営農上の様々なリスクについて、今一度取り組み内容を確認し、不十分な点がないか再考してみましょう。

2. PDCA サイクル（プラン・ドゥー・チェック・アクション）について

食品安全・環境保全・労働安全に関する法令等を遵守し、これらの事項の実施、記録、点検、を評価する（PDCA サイクル）ことにより、農業生産における各工程の管理・改善を継続して行うことができます。（生産部会などでは図外側の部会行事等と合わせて行う）



※出典：<http://gap.maff.go.jp/execute/pdca/> 農林水産省 これからはじめる GAP

3. バックナンバーについて

過去に発信した営農情報内容については、下記 HP に公開されています。

※公開先：<http://www.ja-cb-mottoanshin.com/einou/index.html> JA 全農ちば 営農情報集

(営農情報集5月号) 異物混入防止	(営農情報集8月号) 農作業事故防止	(営農情報集12月号) 農薬・肥料の保管方法
(営農情報集6月号) 食中毒防止	(営農情報集9月号) 農薬散布記録簿の記入	(営農情報集1月号) 燃料の保管方法
(営農情報集7月号) 熱中症対策	(営農情報集10月号) 農薬散布機の洗浄	(営農情報集2月号) 堆肥の管理方法

作成：名雪・田代

農作業安全 トラクター巻き込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬の散布日・希釈倍数など記録用紙に正確に記録。

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば